

【出席者】

社会教育委員：田代保廣委員、青山朝美委員、鈴木美香委員、  
熊谷紀男委員、松本敬人委員、萩原淑恵委員、  
西田正鋭委員、中村吉哉委員

教育委員会社会教育課：清水社会教育課長、伊藤課長補佐兼社会教育係長

【会議の内容】

1 開会（事務局：伊藤）

- ・配付資料の確認を行った。

2 田代議長あいさつ

- ・前回（1月26日）に参集をお願いしたが、出席人数が少なく会議が成立しなかった。それぞれ事情があるかと思うが、欠席される場合には前日までに連絡をいただきたい。会議の開催について判断できるのでご協力願う。
- ・県社教連の主催で研修会が昨日行われた。講演は私にとって考えさせられる内容であった。私達が今議論している公民館について、成り立ちの話があった。社会構造の変化のなかで考え方や対応を変えていかなければならない。1950年頃、公民館は民主的社会教育機関、“茶の間”民主主義の訓練の場等とされていた。本日も議題としているが、現在の場として公民館をどのように考えていけばいいか。
- ・3月に発行される県社教連の広報誌には島田市の社会教育活動が掲載される。
- ・初倉中の新1年生の保護者に向けて10分間時間をいただき、家庭教育の在り方について話をさせていただいた。
- ・本日もよろしく申し上げます。

3 清水課長あいさつ

- ・田代議長のあいさつにもあったが、前回の会議が不成立になったことは、当日体調を崩された方もおり仕方がないことだと思う。時節柄お身体の健康が第一なので気をつけていただければ。
- ・3月に当課主管の「生涯学習大会フェスタしまだ」と「金谷宿大学成果発表会」がある。コロナの影響で、ここ数年開催を中止したり規模縮小したりしてきたが、今回は以前の形に戻して開催する。コロナ感染予防対策を引き続き実施する。
- ・コロナ対策については、危機管理課として3月13日を目途にマスクの着

用を個人の判断にしていく案があるようだ。社会教育課が所管する施設についても、それに沿った形で対応していくことを考えている。

- ・本日も「公民館の今後の在り方について」をはじめ、いくつかの議題がある。活発なご議論をよろしくお願いします。

#### 4 議題

##### (1) 「島田市における公民館の今後の在り方について」の検討

伊藤から資料1 提言書の構成と論点（案）について説明した。

- ・最終的には提言書の形で報告する。構成や中身、論点について、そろそろ考えていかなければならないという思いから原案を提示させてもらった。こうした構成でいいのか、論点がもっと他にもあるのではないかなど出してもらえれば有難い。
- ・今までの会議録をもう一度見返してみたら、考えなければならないと思うことがいくつか見つかった。それをお話する。
  - ① 対象…初倉、六合、金谷。これでいいの？ということ。諮問では、この3公民館を対象にしてくださいと。これまでの議論のなかで地域格差の問題が出てきている。公民館がない地域がある。その点を触れるのかどうか。また、公会堂についても、公民館機能についてもってもらうように書くべきかどうか。
  - ② 人口…人口どれくらいに対して公民館を置くべきかなど、構造問題についてどうか。これについては論じないということでもいいか。
  - ③ 指定管理者…金谷は4月から導入される。金谷以外もいずれ動くのではないかという気がする。このことをどのように論じるか。指定管理者を論じるのではなくて、公民館を論じて、市でも指定管理者でも、公民館機能を果たしてくれればいいという考えもあるかもしれない。触れなければいけないのではないかと思う。
  - ④ 機能分担…AとBという公民館があったとしたら、どちらもフル装備でやらなくてもいいのではないかという意見。A公民館はこれをやって、B公民館は違うことをやる。お互いに大変だから。このような意見もあった。でも、この施設でなければということもあるかもしれない。
  - ⑤ 「用はなくても来られる、公民館へ」…昨日の研修会での講演でもあった、村の“茶の間”の考え方。交流の場。
  - ⑥ コミュニティセンター化…コミュニティセンター化の方向に行くのか、いや、そうではないか。コミュニティセンターになると地域住民主体になって市が関与しなくなってしまう恐れも。島根県にあるような公民館とコミュニティセンター両方の機能をもった施設がいいか。藤枝市も公民館機能をもったコミュニティ施設。公民館でやっていない機能をプラスアルファでもつ、初倉総合センター方式でいいと思う。
  - ⑦ 営利目的…社会教育法第23条第1項で、営利を目的とした事業をやってはいけないとされている。一方で、公民館が営利事業に関わることを全面的に禁止するものではないとされている。カフェや自動販売機に

についても、あったほうがいい、いやだめだなど、謳うかどうか。

⑧ 定年を迎える人の支援…先日、キャリアデザインの講師を務めてきたが、受講者は50代で、もう少しで定年を迎える、定年後はどうするの？夢を描きながら何をすべきかという講座。ある受講者から、50代で趣味を持ってとかボランティア活動をといわれても私はどこへいけばいいのかと質問された。私は近くの公民館に行けばいろいろな講座があるし、その講座を受けることにより他人との交流も生まれると話した。

- ・今までの皆さんの意見を確認しつつ、課題として説明させてもらった。皆さんからもご意見をいただきたいと思う。
- ・こども食堂でお世話になっており、公民館には感謝の気持ちでいっぱい。特にセンター長にはみんなが協力してくれるからフードバンクの箱を置いてみたらとアドバイスも貰った。やってみたら地域の方々からたくさんのお食べ物をいただくようになった。そのおかげでひとり親家庭の人達にお米とか食料品を渡す食料頒布会も開催できるようになった。また、公民館を利用する時に、これはやっていいけどこれ以上はダメとか明確に示してくれるからやりやすい。野菜を提供してくれる方に公民館に遊びに来てと話すと、公民館はよく判らないし行かないと。公民館に用はない、興味がないようである。公民館から離れた地区の方である。そのような方達にいかにか公民館を利用してもらうか、そのなかに孤立している人が含まれているかなと思うと、余計に足を運んでもらうきっかけがあるといいなと思う。公民館でどのようなことが行われているか知らない。
- ・私は公民館がないところで育ってきた。今も住民としての関わりは全くない。公民館活動をこうして行こうというときに、全市民が公民館活動に参加できる方向に時間がかかってももっていきこうとしているのか、3館だけでいいということかで、提言の書きっぷりは変わってくると思う。川根の人に初倉公民館の講座に参加してもらうことは距離的にも時間的にも無理である。地域限定の公民館がいいのでは。無理なく通えるしロコミでも価値が伝わっていきやすい。コミュニティづくりにも役立ちそう。藤枝、焼津は地区ごとに公民館があり、地域とのつながりもできている。磐田も全部を交流センターにした。ただ、旧磐田市には近隣の地区にある一方、旧町には大きな施設がひとつあるような状況である。通うのに大変という意見もあるようだ。公民館はこうあるべきだと継続していれば、市がやろうと指定管理者がやろうと関係ないと思う。いかに社会教育課が関わってけるか。昔作られた法律を厳守している地方行政にも問題があると思う。地域住民のニーズや変化を一番知っているのは地方自治体である。その人達がこのような実態があるから変えてほしいと社会教育法に柔軟性を持たせるとかの動きがあれば提言もしやすい。提言しても法律に縛られて動きようがないというなら提言しても無意味である。提言に行政再編でこういうことも考えてほしいと謳ってもいいのかなと思う。施設に関わっている者としての感想は、利用者を広げようとしてもなかなか広がらない。どうしても固定化されてしまう。趣味のグループの活動が多い。ボランティア的な活動も始まったが、コロナで自粛になり、今後再び活動してくれるか

どうか。

- ・提言をまとめなければいけないが、何のために提言をするか、原点が見えない。対象が島田市は三つの公民館で市職員が業務している。公民館だけではない総合的な場であり、その方が良いに決まっています、他市町はそのような方向に向かっている。焼津市もその方向で動いているし、藤枝市は地域の拠点に11か所計画的に造っている。島田市の三つの公民館は問題ないように思っていて、なぜ今の時期に問題があるとして取り上げられるのかよく判らない。我々は島田市全体のことを考えなければならない立場なので、総合的に考えなければならない。そのために三つを取り上げるなら判る。自分は伊久身出身なので、学校も無くなるしコミュニティの場が無くなっていくようなことから、まさしく必要である。一方で財政のこともある。大小あると思うけど、バランスの良い公民館の在り方を島田市でもう1回提言していくことは非常に判りやすいと思う。原点のところ、対象のところ、三つでいいのかスッキリしない。三つの公民館に課題を何も感じていない。むしろ、子どもの施設をもっと造ればいいし。

➡確かに問題ないかもしれない。ただ、あえて言うならというところもあるかもしれない。

➡ある。そこをやるというならやらなければならない。

- ・対象を考えると、川根町時代、役場の近くに公民館があったが、老朽化で三、四十年前に無くなった。恐らく必要が無いとやめたのかも。その後、川根地区センター（ちゃくら）ができて、島田市川根文化センター（チャリム21）については、NPO法人まちづくり川根を設立し指定管理をしている。

その部会では、生涯学習で何をやるか決めて活動している。年齢層も40代から自治会長を務める年代まで幅広くやりたいことをやっている。公民館が無くても不満はないのかなと思うし、使い勝手が悪いと感じたこともない。チャリムは公民館ではないので、営利目的のようなものもやっている。

➡拠点はチャリムでいいか。

➡ほとんどチャリムでいいのでは。ちゃくらはほとんどが会議室としての利用ではないか。

➡運営はNPOか。

➡ちゃくらは、社会教育課の管理運営で、公民館の類似施設である。チャリムはおおるりや夢づくり会館と同じ文化施設である。

➡チャリムが公民館機能を果たしていると考えるか。例えば、学習支援の場とか町内会の会合の場とか。

➡展示会とかで高齢者も利用している。

➡場所が悪いかもしれないが、防災施設としてはあのくらいの高さのところはいいのでは。

- ・地域差の問題から公会堂の話が出たが、論じなければならないのは、公民館の在り方なので、そこを入れると違ってくるのかなと思う。もっと別のことで公民館の課題を挙げていく必要があるのでは。課題のところ、固

定化されている傾向があることについて、場所によって来られる人來れない人があるのはどうしても変え難い事実であって、それでも来たくなるようなイベントなどを打てばいいけど、学習目的で利用するのが公民館ならば、そこに興味を持つ持たないは個人の問題で、そこが固定化することはある意味いけないことではないのかなという気がする。また、カルチャーセンターと違って地域課題を解決するためにあるのが公民館であると事務局から説明があったが、それなのに枠組みでできない営利目的がNGであるとすると、営利目的をあまりにオープンにOKにしてしまうと、すごく逆行してしまう気がする。地域課題とかけ離れていく気がする。今後の島田市のコミュニティセンターとしていくのか、説明がちぐはぐのような気がする。今の社会教育法でも、ある程度の販売とかは法律の解釈が変わってできると思う。先日の公民館まつりで販売をさせてもらった。営利ではダメなので、かかった材料費程度の金額での販売であったが、販売はできました。そのような形で地域の方と関わることができると思うし、生徒さんも自分の作品が人の手に渡る喜びを得ることができて、その人達が、少しずついろいろなところに出て行って人を呼ぶことができることを考えれば、今の公民館だからできないとはいえないのでは。柔軟に考えれば、今のままでもできることはたくさんあるような気がする。地域限定でこの人達が使うからこその公民館の良さは大いにあって、三つの公民館で特色ある活動を実際にやっている。若年層が利用しないのは今の時代のニーズの問題で、来る時間的、金銭的余裕が無い人達が多くなっているために年齢層に偏りがあるところにシフトしてきている気がする。子どもは習い事に出ていかなければならないし、親も一緒に出ていく。学習する時間はない。課題ではあるが仕方がないこととして、その人たちがいつだったら、参加できるようになるのか。先ほど議長の説明にあったように、50代からとか子供の手が離れてから来る場所があるよ、その場所を作っておくための公民館という形でもいいのでは。そこで参加している人達が楽しそうにいろいろなことをやっていけば、いいなあ、いずれ自分もやってみたいなと思ってもらえれば、若い人達がそこに楽しみや憧れとかを見出して、いずれ参加してくれる、それを期待して楽しいイベントなどをやってみる公民館でもいいのかなという気がする。

- ➡ 設けてはダメだという中で、展示販売会をやったと。常時やっているのではない？
- ➡ そのときだけである。
- ➡ 初倉公民館で開催されている駄菓子屋さんも？
- ➡ そうである。
- ➡ 常時やっているカフェがあってもいいのではと思っている。
- ➡ 自販機はどここの公民館にもある？
- ➡ 初倉公民館にはない。
- ➡ 自治会が営利だから入れるべきではないと昔反対したと聞いている。
- ・ 公民館に対するイメージは私の中ではよくない。公民館を利用していた時代は昭和で、暗い、汚いところにある。図書館法、博物館法で、それぞれ

の機能が定義されている。欧米の諸外国にもモデルがある。公民館とは何か調べたが、よく判らなかつた。英語では文科省の訳でパブリックホールである。機能を持ったところとは定義されていない。昨日の牧野篤先生の講演（県社会教育委員の研修会）を聞いて、日本的につくっていったことが判った。定義されないものを勝手に定義してやって構わないと防災センターまでプラスされた。様々な機能を持たされている。全く日本的だと思う。公民館はこうであると島田市として定義するしかないのではないか。どのような機能を持ってどのような施設、箱があると定義することが一つの方法だと思う。対象よりも重要なのは担い手だと思う。担い手は職員がメインではなく、利用者が自発的に活動を作り上げるのが望ましい。そうでないと続かないし、文化も技術も伝承されていかないと思う。私の頭の中にある社会教育機関は博物館、図書館、公民館であるが、日本の場合は義務教育と連携していない。高校の歴史の先生方が学校教育の中に博物館をどう取り入れるか検討した。それが重要であると理解している先生方だけできないと判断した。教育計画の中に入れ込む時間的余裕がないということとお金がない、担当の教員の手配が難しいと。海外では学芸員に絵画の説明を受けたり、博物館に先生と子供が来て、利用体験をしたりしている。一般社会において非常に使いやすい。日本の場合も公民館に学び付けを注ぐ先生が必要では。授業で公民館のことに触れることも。授業で聞けば子供達も行きやすい。とにかく、機能を分析して、どのような機能が必要か、それに対して今の状況はどうか、どのようなサービスが市民に対して必要かなと思う。やはり一番は担い手のことである。

- “島田市における公民館”のところがとても引っかかっている。ここをはっきりさせないと考えられない。三館の名前が出ていないし、何となく島田市にはたくさん公民館があるような感じがするし、地域住民のニーズに応えられないとあるが、地域住民とは誰なのかと。漠然としていて答申が具体的にならないだろうと思う。はっきりと初めから三館の、と決めてくれれば、三館の様子をみてもっとこうすればいいとか、街なかにまで広げる活動をやってほしいとか、いろいろなことができる。昨日、島二中の学校運営協議会があって、今年の3月ぐらいから、1、2年生が総合的な学習の時間の中で、地域の方、会社とコラボし、クロスメディアなどの八つの会社が課題を出し、一緒に考えていくことをやる。島田市は危機管理課が防災に中学生がいかに関わってくれるかが課題のようだ。はなみずき自治会館でも地域の人を集めたいが、どうしたらいいかを一緒に考えるそうだ。三館の今後の在り方ならば、こういうところと連携したらどうですかと提言できる。最初にそこのところをはっきりしたほうが考えやすい。これ以上公民館はできないですね。

- ➡増やすことは難しい。
- ➡総合的な学習の時間で、公民館を取り上げることはあるのか。
- ➡無いと思う。公民館という言葉も知らないかも。
- ➡公民館は発表の場、表現する場で、いろいろな作品を置いたり展示したりしているところであると子供達は認識している。

- ➡島二中の子達は知らないと思う。近くにないから。
- ➡公民館と公会堂とどう違うと聞かれたことはある。非常に難しい質問である。公民館の類似施設が市内にいっぱいあるが、そこがそれぞれ単独で動くよりも一つの指針を示して、すべて公民館化しなくてもいいから、それらも含めて活用するような方向で提言するのか、三館だけにするのか、三館だけだと重箱の隅をつつくような感じで、すごく活動していると思うから。
- ➡ネットワークという言葉キーワードにすればいいかもしれない。
- ➡そこに行けば誰かが知恵を貸してくれるとか、相談相手になってくれる場になれば、自然に人は集まってくるのではないか。初倉にも六合にも川根にも活動を立ち上げていくようなボランティアグループがあると思う。私の職場で金谷宿大学のある講座が開催されているが、小学生のときには参加していたが、中高大のときは参加できなかったが、3名ほど地元で就職したので参加するようになった、子供の頃に体験していれば思い出して参加してくれる。あと、30代の5、6人のグループがゲームをやるため部屋の貸し出しを希望したので、貸してみた。騒ぐこともなく仲良くやっているのをみると、公的なところでも貸してくれると広がってくればいいと思う。固定化の原因としては、決められた日に抽選する方法ではなく、予約が先着順で、ある程度いつも利用している団体が先に取ってしまうことも原因のひとつかなと思う
- ➡諮問文は、「島田市における公民館の今後の在り方について」となっている。今後のと。諮問文の中身は3館のことを言っている。諮問理由には、現状と課題を整理するとあるが、どこまで整理するかということもある。3館に不足するものはないところから出発すると、3館が核となり他の地域にというような論じ方もあるかもしれない。
  - ・社会教育施設としての役割は3館だけでなく類似施設にも職員が常駐し公民館に準じた管理運営を行っている。古い建物が多いが、建て替えや改築を行うのは難しいので、役割、機能をどうしていくかが論じ方としてあるのかなと思う。社会教育施設としてだけでなく、全体的にいろいろな機能を持たせていくということであれば、公会堂も含めてどのような機能をいくことになるのかな。類似施設も対象としていくなら、地域との役割という点で機能の問題が出てくる。
- ➡広げるといふこと。何を求めているのかなというところがはっきり受け止められないと思う。大切なことは人で、人がどのように集まって、助け合っていて、繋げていくのかを島田市が求めているのなら、3館の在り方を考えながら、その方法、繋がり方、今は特定の人、グループと繋がっているが、もっと地域を巻き込んで繋げていきたいとき、3館の公民館を例にとって今足りないことは何かを考えていくことで、公会堂に参考になって広がっていけばいいと思う。
- ➡おっしゃるとおり、施設と人との関わり方が大きなポイントだと思う。
- ➡課題を見直さなければならぬ。

(2) 令和5年度社会教育団体に対する補助金の交付について

- ・社会教育法第13条において、地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の意見を聴いて行わなければならないとされている。令和5年度社会教育団体に対する補助金の交付についてご意見を伺った。

・以下、質疑応答。

Q 交付した補助金に対する実績報告書がみたい。

A 実績に対する報告書は提示していきたい。

(3) 令和5年度志太地区社会教育委員研修会について

- ・来年度、志太地区の研修会の当番市になるため、実施方法・開催日時・会場・講演会内容等について検討が必要である旨を事務局が説明した。
- ・前回の意見聴取会では、開催内容については、コロナ対応も今後変わってくることを考慮すれば、フルバージョン、コロナ前の実施方法で考えていくのが良いのではないかという意見があった。
- ・また、前回の会議では、湯日小跡のグランピング施設に見学に行くのはどうかとの意見があり、調べたところ、研修会を開催するには会場としては密になってしまう大きさであること、見学をするには利用者がいない時間の10時から13時になり、研修日程からすると難しいといった状況である。
- ・市役所新庁舎の見学については、7月下旬に完成するかしないかの微妙な時期から厳しいとの反応が担当課からあった。
- ・講演については、島田市にゆかりのある2022年直木賞候補の永井紗耶子氏の紹介をした。諏訪原城の短編小説も執筆している。諏訪原城の見学と絡めることも提案した。現時点で7月の博物館の企画展の内容を確認できていないが、そちらも考えられるかなと思う。

・以下、質疑応答。

- ・施設見学と講演会、両方やるのは大変では。3市委員の交流もコロナ前まではやってきているので。

➡講演、3市委員の交流、施設見学となると確かに大変である。

・諏訪原城の小説を書いている？

➡静岡新聞出版で「アンソロジー静岡、戦国の城」ということで短編小説をいくつか執筆されている方のお一人であり、諏訪原城のことを書いている。

- ・JAXAで「はやぶさ」の開発に携わった方が島田市出身で一人いる。東北大学に戻ったかJAXAにいるか定かでないが。また、諏訪原城の専門家、学芸員でもいいので、現地で話をしてもらってもいい。

➡専門家だと、小和田先生、整備委員会では、三浦先生、中井先生、昇太師匠と応援隊をやっていただいている加藤先生もいる。

➡中部地区の総会には出す必要があると思うので、今後煮詰めていきたい。

## 6 報告

(1) 島田市はたちの集いについて

- ・事務局より実施状況について報告した。



- ・成人年齢が引き下げられ、初めての開催であったが、大きなトラブルもなく無事に終了することができた。
- ・対象者の出席率は、ほぼ昨年並み。金谷地区が少し低いが特に理由はない。
- ・式典中は多少の私語はあるものの、進行には支障はなく実施できた。
- ・式終了後については、ここ数年、駐車場等での過度な飲酒により、救急搬送される者がいたが、今年度はそのようなこともなかった（酒瓶を取り上げたのは1名のみ、のぼり旗持参した者も1名のみ）
- ・駐車場については、今回、式が始まった14時以降は、第1駐車場を完全に封鎖し、その代わりに第2駐車場にお迎え専用のレーンを設けた。これの影響で、15時過ぎから16時近くまでの間、道路渋滞が発生したが警察からの改善指示等は特にきていない。（道路渋滞は、従来までのやり方でも発生する。）
- ・アンケートを取ったが、741人の出席者に対し、477人の回答をいただいた。（回答率：64.4%）「式典に参加して良かったか、島田が好きか、これからも住みたいか」については概ね肯定的な意見をいただいた。
- ・アトラクションもいつもお願いしているハレルヤさんに加え、リージャさんにも出演していただき、参加者も聞き入ってくれていたと思う。
- ・次回も今年を踏襲して進めていきたいと現在のところは考えている。引き続き、お気づきの点等ありましたら、ご指摘いただきたいと思います。

## 7 その他

- ・春風秋霜に親学ノートのことが載っており、親学ノートについては、皆さんに提言していただいた「家庭教育の在り方」から引用した言葉が使われている、皆さんの活動が活かしている事例となっていることを紹介させていただいた。
- ➡郷土研究会の機関誌にも私が寄稿しているので、完成してから配布させていただきます。

## 8 閉会

萩原副議長から閉会あいさつ

- ・昨日の研修会で、すごく心に残った言葉がいくつもあったが、健康で長寿、栄養と運動と社会参加というけど、どれだけ栄養の高いものを食べていても1人でぼそぼそ食べていては、それは違ふと。運動も1人で走っているよりも、みんなでワイワイしたほうがいい。社会参加も1人でごみを拾うよりも、カラオケにでも、みんなで行ってワイワイしたほうがいい。人と接することが大切であると。今日は皆さんで頭を使って、いっぱい話し合いをしたので、長寿のホルモンがいっぱい出てきたのではないかと思います。本日はありがとうございました。